

## 平成25年度 第10回教育研究評議会議事録

日 時 平成26年1月15日（水）14:30～16:30  
場 所 事務局大会議室  
出席者 伊東、石井、碓氷、浅利、前田、柳澤、杉山、木村、東郷、中野、  
鈴木、今野、寺村、平岡、梅澤、國宗、菅野、西原、酒井、藤井、  
増田、青山、塩尻、佐古、中山、糠谷、河合、鳥山、永津、渡邊、  
田中、三村、朴、高松の各評議員  
欠席者 星野評議員  
陪席者 大戸監事、櫻本勝彦氏  
中村、佐藤の各学長補佐  
山本保健センター所長

### I 議事録の承認について

平成25年度第9回教育研究評議会議事録（案）を原案どおり承認した。

### II 審議事項

#### 1 国立大学法人静岡大学中期目標及び中期計画の変更について

東郷委員から、電子工学研究所が共同利用・共同研究拠点に認定を受けたこと及び重要財産を譲渡することに伴う中期目標及び中期計画の変更について、資料1により説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

#### 2 静岡大学における研究者の行動規範の改訂について

碓氷委員から、日本学術会議において「科学者の行動規範」が改訂されたことに伴う「静岡大学における研究者の行動規範」の改訂について、資料2により説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

#### 3 国立大学法人静岡大学と久能山東照宮との文化財及び環境保全に関する連携協定書締結について

木村委員から、本学と久能山東照宮との文化財及び環境保全に関する連携協定書の締結について、資料3により説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

なお、同委員から、久能山東照宮が宗教法人であることに留意し、「文化財及び環境保全に関すること」に連携項目を限定させている旨の発言があった。

### III 報告事項

#### 1 企画戦略会議報告

議長から、第9回企画戦略会議（H26.1.8）について、資料4により報告があった。

## 2 経営協議会報告

議長から、第7回経営協議会（メール審議 H25.12.24）について、資料5により報告があった。

## 3 平成26年3月卒業・修了予定者の進路状況について

杉山委員から、平成26年3月卒業・修了予定者の進路状況について、資料6により報告があり、キャリアカウンセラーによる就職相談を有効的に活用すること及び2月に卒業直前セミナーを開催予定である旨の発言があった。

なお、議長から就職未内定者が多数存在することを踏まえ、各部局において、できる限りの支援を行うよう要請があった。

（各部局の就職支援に関する対応状況）

○今年度から、就職内定状況の報告を従来の紙からWEB入力での対応としたことにより、未入力者が内定率に影響を与えている。状況把握方法について、見直す必要があると思われる。

○教員採用試験不合格者のうち、臨時講師を行いながら改めて受験する者は、未内定者として取扱われていることが内定率に影響を与えている。今後、4年生時の単位確認、就職状況、進路先をトータルとした仕組みを構築する必要がある。

○2月中旬からの1ヶ月間が内定率を上げるための重要な期間であり、未内定者等の呼び出しを行い、個別に対応することとしている。なお、昨年度と比較し、未内定者の状況を掴むことができている。

○連絡が取れず未確認の学生について、家庭訪問を実施する等個別対応を行う。

○各学科に就職担当教員を置き、細かな指導を行っている。

○就職戦略室を設置し、固定したメンバーが週1回程度就職相談を行っている。また、専門家による面接指導の実施、企業による就職相談会を年間4回実施している。

○今年度は後期に学位を取得する者が多く、未内定者となっている。今後、学位取得の本審査を受け就職の確定または学術研究員の雇用も想定され、最終的な就職率の確定は3月になる。

## 4 教育学部・教育学研究科とモンゴル国立教育大学（モンゴル国）との部局間交流協定の締結について

鈴木委員及び梅澤委員から、標記部局間交流協定の締結について、資料7により報告があった。

なお、資料の一部について、修正を行うこととした。

## 5 農学部・農学研究科とキングモンクット工科大学トンブリ校生物資源工学研究科（タイ王国）との部局間交流協定の締結について

鈴木委員から、標記部局間交流協定の締結について、資料8により報告があった。

#### 6 教員採用等報告について

議長から、理学研究科2名、工学研究科1名及び農学研究科1名の教員の採用等について、資料9により報告があった。

### IV その他

#### 1 インターアカデミア・アジアの開催について

鈴木委員から、インターアカデミア・アジアの開催について、資料10により案内があり、関係教員の参加について要請があった。

#### 2 「静岡の教育WORLDに語る、教師の成長WORLDに聴き合う」の開催について

梅澤委員から、「静岡の教育WORLDに語る、教師の成長WORLDに聴き合う」の開催について、資料11により案内があった。

#### 3 第4回静岡大学教育学部教育研究フォーラムの開催について

梅澤委員から、第4回静岡大学教育学部教育研究フォーラムの開催について、資料12により案内があった。

#### 4 教師教育・教育委員会に関する日米教育改革交流シンポジウムについて

梅澤委員から、教師教育・教育委員会に関する日米教育改革交流シンポジウムについて、資料13により案内があった。

#### 5 理工系4研究科の大きくくり化後の新研究科長の選考について

議長から、本学のガバナンス改革に絡み、理工系4研究科の大きくくり化後の新研究科長の選考について、電子工学研究所長及びグリーン科学技術研究所長の選考と同様に、新研究科から複数の候補者を推薦願い、学長が選考することについて、理工系4研究科長の了解が得られたことから、その方向で進める旨の報告があった。

### ※意見交換

(○評議員 △執行部)

○今後のガバナンス改革の取組みについて、学長から強いメッセージが出されるのか。

△第3期中期計画の策定に向けた議論の中で示していきたい。

○1月30日発売予定の「就職率で見抜く！沈む大学 伸びる大学」〔木村誠：朝日新書〕において、本学の就職率は全国で60位、国立大学の中では7位で高い位置にある。ミッションの再定義の資料等に使用できるの

ではないか。また、本学が就職支援に力を入れてきた施策が功を成したのではないか。

○平成26年度、27年度における事務職の学長管理枠の再配置についてどの様に考えているのか。

△戦略的に配置していきたい。事務局長を中心に、事務の現状を踏まえた素案の検討をお願いしている。

△ターゲットアジアを踏まえた国際化対応及び浜松地区の学生支援等全体を俯瞰して、検討していきたい。

△平成27年度、28年度は、学部改組、大学院改組及び入試改革の山場であり、4研究科の大きくくり化を踏まえ対応する事務組織を再編成する必要がある。

○教育の高度化に伴い、部署によっては教育を専任する教員が必要と感ずることがあるが、どの様に考えるのか。

△問題意識はあるが、研究抜きで、教育に専念する教員を安定的に確保することが難しい状況である。

○教育に重点を置くことも必要だが、研究を背景とした教育力は、地方大学の強みであり、そこを伸ばしていくことも必要ではないか。

○教育評価の手法をお聞きしたい。

△文部科学省のWEBページに示されている大学設置基準の、教育研究業績書に教育指標を記載することとなっているので、参考になるのではないか。

○大学教育の中で、教育の手法等教員になるための力をつけていく方策を検討していくことが必要である。

以 上